



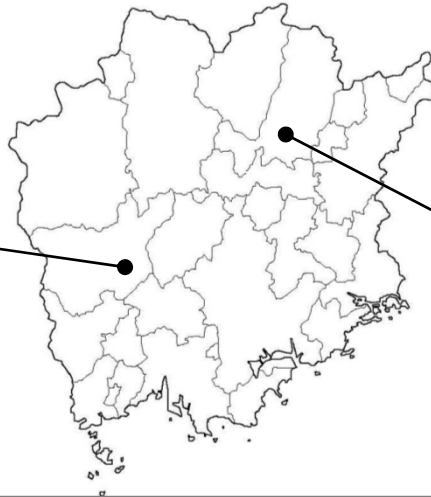
■事後評価

【都市計画道路整備の課題】

・中心市街地や市街地周辺では、著しい交通混雑や交通安全上の問題が発生していることから、交通の円滑化や交通安全の確保を図ることが課題となっています。



【幅員狭小】
(都)南町近似線の旧道部(高梁市)



【交通混雑】
(都)林田小原線の周辺部(津山市)

【整備目標】

・通学路や自転車道の整備により生活空間の安全を確保するとともに、緊急輸送道路の整備によりインフラを再構築することで、暮らしの安心と地域活性化を実現することを整備目標として事業を推進します。

《定量的指標の最終目標値と最終実績値》

指標① 自転車歩行者道の整備による歩行者・自転車の安全性の向上

最終目標値	143人台	目標値と実績値 に差が出た要因
最終実績値	483人台	

目標達成のための道路整備を着実に進めたことにより、計画期間内に完了を予定していた箇所以上の整備が完了したことから、早期に整備効果が発現するなどし、目標値を上回る実績値となった。

指標② 緊急輸送道路の整備による走行時間の短縮

最終目標値	1%減	目標値と実績値 に差が出た要因
最終実績値	2%減	

上記要因のほか、整備が完了した箇所について、想定した以上の走行時間の短縮が図られたことから、目標値を上回る実績値となった。

【対策の実施】

・設定した目標にむけて、新設道路(バイパス)等の整備を実施しました。



(都)南町近似線(高梁市)



(都)林田小原線(津山市)

【最終目標の実現状況と今後の方針】

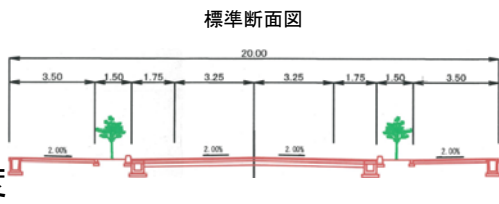
・最終目標の達成状況を確認した結果、着実な事業進捗が図られたことにより、効果発現目標が達成されました。しかしながら、県内には渋滞対策や安全・安心な歩行空間の確保を必要とする箇所が残されていることから、引き続き次期計画において事業を推進します。



(都) 南町近似線(高梁市原田北町～浜町)

【事業概要】

延長:L=210m
 幅員:W=6.5(20.0)m
 全体事業費:約6億円
 事業期間:H20～27年度



【道路の位置付け】

本路線は、高梁市原田北町から浜町に至る路線で、JR備中高梁駅及び国道484号へアクセスする道路です。地域住民の生活を支える道路として利用されています。

【整備前の状況】

・現道幅員が4m程度と狭く、すれ違いに支障を来していました。更に歩道も未整備であるため、歩行者等に対し、とても危険な状態でした。



路肩が狭く歩道が未整備の現道



大型車とのすれ違い困難

【整備後(整備効果)】



■ 交通難所の解消

- ・現道の幅員狭小区間の整備により円滑な交通が確保されました。
- ・JR備中高梁駅及び国道484号へのアクセス性が向上しました。

■ 安全安心な道路空間の形成

- ・歩道設置により、安全な歩行空間が確保されました。



道路整備後の状況



歩道整備後の通学状況

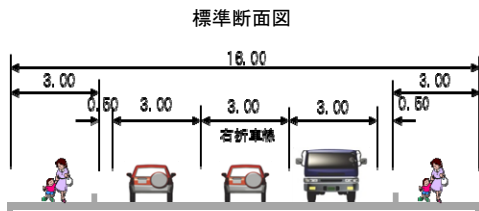
NO.10 岡山県の暮らしの安全・地域活性化を目指した街路整備(防災・安全)



(都) 林田小原線(津山市林田)

【事業概要】

延長:L=134m
 幅員:W=16.0m
 全体事業費:約3億円
 事業期間:H25~28年度



【道路の位置付け】

本路線は、津山市林田から小原に至る道路で、津山市街地の東部と北西部を環状に結ぶ幹線道路です。事業箇所周辺は、市役所、警察署、学校などの公共施設が集中しており、地域住民の生活を支える道路としても利用されています。

【整備前の状況】

・周辺は都市計画道路、県道、市道が複雑に交錯し、慢性的な交通渋滞が発生していました。また、右折車線や歩道が整備されていないことから、自動車および自転車・歩行者が輻輳する、非常に危険な状態でした。



慢性的な渋滞が発生(市道部)



歩道が未整備で自動車と自転車・歩行者が輻輳し危険な状況

【整備後(整備効果)】



■交通難所の解消

・旧道の幅員狭小区間をバイパスにより回避し円滑で安全な交通が確保されました。

■安全安心な道路空間の形成

・右折車線と歩道の設置により、自動車と自転車・歩行者の輻輳が解消され、安全な歩行空間が確保されました。



道路整備後の状況



道路整備後の円滑で安全な交通



歩道設置による安全な自転車・歩行空間